

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第二主日礼拝 2020年8月9日

前奏：

招きのことば：詩編 86 編 5-10 節

主よ、あなたは恵み深く、お赦しになる方。

あなたを呼ぶ者に豊かな慈しみをお与えになります。

主よ、わたしの祈りをお聞きください。嘆き祈るわたしの声に耳を向けてください。

苦難の襲うときわたしが呼び求めれば あなたは必ず答えてくださるでしょう。

主よ、あなたのような神は神々のうちになく あなたの御業に並ぶものはありません。

主よ、あなたがお造りになった国々はすべて 御前に進み出て伏し拝み、御名を尊びます。

あなたは偉大な神 驚くべき御業を成し遂げられる方 ただあなたひとり、神。代々に及ぶ。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちを御心にとめてくださり、あなたの御子イエス様によって私たちの罪を赦して神の子としてくださいました。過ぐる一週間も、御手によって守り導いてくださり、また今朝共に主の御前にお導きくださいましたことを感謝いたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大の心配を持ちながら、私たちは新しい生活を立てあげようとしています。不安と困難に直面しています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹でカづけてください。私たちが主イエス様を信じ、これからもさらに互いを赦し、また高め合って歩んでいけますように導いてください。今日から始まる新しい一週間も、あなたに遣わされているところで、御名のみ栄のために歩ませてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ 10 章 5-15 節

モーセは、律法による義について、「掟を守る人は掟によって生きる」と記しています。

しかし、信仰による義については、こう述べられています。「心の中で『だれが天に上るか』と行ってはならない。」これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。また、「『だれが底なしの淵に下るか』と言ってもならない。」これは、キリストを死者の中から引き上げることになります。

では、何と言われているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。

口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。

福音書朗読：マタイによる福音書 14 章 22—33 節

それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。

夜が明けるところ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心なさい。わたしだ。恐れることはない。」すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

讚美歌：494番

1. わが行く道 いつかには なるべきかは つゆ知らねど 主は御心 なしたまわん。
 <折り返し> 備えたもう 主の道を 踏みて行かん ひとすじに。
2. 心たけく たゆまざれ 人は変わり 世は移れど 主は御心 なしたまわん。 <折り返し>
3. 荒海をも うち開き 砂原にも マナをふらせ 主は御心 なしたまわん。 <折り返し>
 アーメン

説教：「わたしだ、恐れることはない」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は私たちにイエス様を信じる信仰を与え、またその信仰を育ててくださいます。先週は、イエス様のお弟子たちがイエス様の奇跡を見ることによって信仰の訓練を経験したお話でした。おなかのすいた群衆がいました。お弟子が見つめてきた5つのパンと二匹の魚もなんの役にも立たない圧倒的な数の人々を、イエス様は養ってくださいました。みんな満腹して、あまったパンも12の籠にいっぱいになりました。イエス様はピンチのときにやさしく、そして力強く助けてくださる方であることをお弟子たちは経験しました。

今日開かれている聖書の箇所は、その続きのお話です。イエス様はそもそも人里離れたところで祈るために舟にのって湖の向こう側に来ておられました。それで山に登って祈られました。そして、一緒にいたお弟子たちには先に舟で帰っておくように命じられました。

何時間か経った頃、弟子たちは逆風に悩まされていました。湖で大嵐にあったのです。夕方から夜明けごろまで嵐がやみません。お弟子の中にはもと漁師の二組の兄弟もいたのですが、一睡もできず、手に負えない、いつまで続くのかわからない嵐のために疲れ果てていました。

そこにイエス様が湖の上を歩いてこられた、と聖書に書いています。嵐の風の中を、弟子たちを見つめて、水の上を歩いて来られたのです。弟子たちはとっさに「幽霊だ！」と叫んでしまいました。そのときイエス様は「安心しなさい、わたした、恐れることはない。」とおっしゃいました。

私たちの人生にも逆風があります。健康の不安、人間関係の悩み、経済的苦しみなど、いろいろなことで私たちは悩みます。暗い気持ちでいるのはつらいことです。悩むことは決して心地よいことではありません。また、私たちにはプライドがありますから、あまり人々の前で悩んでいることを知られたくはありません。それで平静を装ったり、気晴らしや気休めを求めたり、あきらめたりします。あなたはいかがでしょうか。

そこにイエス様が来てくださっても、自分の問題とイエス様とどんな関係があるのかわからずに、「イエス様、助けてください」と素直に言えないことがあります。そんな私たち、イエス様は「勇気を出しなさい、わたした、恐れることはない」と言ってくださるのです。イエス様はヨハネ16章33節では「あなたがたには世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」ともおっしゃいましたが、イエス様は苦しみのなかにいる私たち「勇気を出しなさい」と励ましてくださるのです。

ペテロの驚きの行動があります。自分も水の上を歩いてあなたのところまで行かせてください、とイエス様をお願いしたのです。まだ呆然としているほかのお弟子たちを意識したのかもしれませんが。イエス様は「来なさい」と言ってくださったのでペテロは舟から出て、イエス様の方へ進んでいきました。水の上を歩いて、です。イエス様の「来なさい」という言葉に信頼して、自分も嵐の真ん中に歩み出ていきました。イエス様を見つめて歩きました。しかしそこでふいに強い風を見ました。我にかえったように、おそれが心の内側からこみ上げてきました。するといきなり沈み始めたのです。ペテロは思わず「主よ、助けてください！」と叫びました。イエス様はすぐに手を伸ばし、沈んでいくペテロをしっかりつかまえてくださり、「信仰の薄いものよ、なぜ疑ったのか」と言われました。ふたりが舟にのると嵐が静まったと聖書は記しています。この一部始終を経験して、お弟子たちはみなイエス様を拝んで、「あなたはほんとうに神の子です」と信仰の告白をしました。

単純で大胆なペテロらしいお願いです。水の上を歩きました。しかし風を見て恐れて沈みました。ここにも信仰の養いがあります。イエス様が来てくださったから、イエス様のみ言葉を信じて勇気を出して悩みに向き合っていこう、と私たちは強められます。はじめは恐る恐るでイエス様を見つめて、祈りながら歩みますが、途中で少し余裕ができるとイエス様から目が離れて自分は何をしているのか、と迷ってしまいます。そんな揺さぶりが来ます。そのとき、信仰によって支えられていた体は、本来の重力によって水の中に沈んでいくのです。自分は本当は何もできないもので、本来は自分のプライドや自己中心のために沈んでしまっただけだと体感することになります。見栄や、ごまかしのきかないそんな必死で無我夢中の中で、イエ

イエスが与えてくださる信仰が育てられます。ペテロは「主よ、助けてください」あるいは「主よ、救ってください」、と言いました。子どものように素直に、でも助けを求めるすごい形相でイエス様に叫びました。考える余裕のない絶体絶命の状況で、主に叫びました。イエス様に愛されていたペテロは、丘の上ではもしかしたらペテロはほかの弟子たちよりも優越感をもっていたかもしれません。「人を見下げていた」かもしれません。でも、いま湖の底に沈みそうになって、一度嵐に気を取られました。再び「主を見上げた」のです。

私たちの信仰は、イエス様が私たちのうちにみ言葉を信頼する信仰としてつくってくださっています。それで嵐のような悩みや試練の中も、そこから逃げ出さず、ごまかさないうで、試練に向き合ってしっかりと歩みます。その中でイエス様が「勇気を出しなさい、わたしは、恐れることはない」というみ言葉によって助け支えてくださるからです。しかし、そんな歩みも知らず知らずのうちに余裕ができて自動化されてしまっていて、自分は嵐の上を歩いているとは覚えているのですが、それがイエス様のお言葉によってなされていることの自覚を見失うことがあります。教会も、自分個人も、必死で主に信頼して歩むときとともに、そのあと嵐のなかなのに不思議に平安に歩むことができることがあります。そんなとき信仰は自動化されて、あってもなくてもあまり変わらないと思ってしまう。

自分の知恵や力でどうにもならないこと、自分の精いっぱい知恵をもって解決の時期もわからず見通しがきかないことに遭遇します。信仰によって水の上を歩いている自分をわすれ、下には水しかない、土台がない、とそこはかたない不安に襲われます。自分の力では解決の手立てがない、と無力感に沈んでいきます。

皆さん、自己過信や気負いは吹き飛んでしまうとき、困難の中で本当にイエス様だけが助けであることを私たちは信じるように鍛えていただくのです。「主よ、救ってください！」そう言って必死で見上げるあなたをイエス様はご覧になってすぐに手を伸ばして助けてくださいます。そして信仰を育て、励ましてくださいます。

悩みの日にわたしを呼べ、わたしはあなたを助け、あなたはわたしをあがめる。詩編 51:15にあるように、お弟子たちはイエス様を拝みました。私たちがイエス様を礼拝する信仰が育てられていきます。

聖餐でイエス様はご自分の体と血を私たちに与えてくださいます。あなたの罪を赦し、あなたに勇気と命を与えて、立ち上がって神様から与えられた使命に生きる喜びの息吹を吹き込んでくださいます。イエス様の死と復活の恵みに私たちに招いてくださるのです。

今、悩みの中にいる方は、このイエス様にもう一度信頼することができる安らぎと深い喜びを得てください。自分は大丈夫、と思っている方は、「主よ、救ってください」という祈りを覚えて、主の救いをあらためて自覚できるときとなりますように祈ります。

新型コロナウイルスの感染拡大に悩まされている中、世界はこれまで頼り切っていた土台を失い、解決のめども見通しもきかない不安の中で、自分たちの力や知恵では今のところどうにもならない無力感にさいなまれています。イエス様が嵐の中、湖の上をあるいて来られます。なんの力もない幽霊のように思わず、イエス様が「勇気を出しなさい、わたしだ、恐れることはない」と言われることに心を留めましょう。主は救い出してくださいませ。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思を守ってくださいませ。アーメン。

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。

(くりかえし) マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあつて我らは生きる。

(くりかえし)

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。 **アーメン**」

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエスのまことのからだ、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいらせてくださいませ。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

主の食卓を囲み 讚美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあつて我らは歩む。
(くりかえし) マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

讚美歌：515 番 献金 献金感謝の祈り

1. 「十字架の血に きよめぬれば、来よ」との御声を われはきけり。
〈繰り返し〉主よ、われは いまぞゆく、十字架の血にて きよめたまえ。
2. 弱きわれも みちからをえ、この身の汚れを みな拭われん。〈繰り返し〉
3. まごころもて せつに祈る、心にみつるは 主のみ恵み。 〈繰り返し〉
4. ほむべきかな わが主の愛、ああほむべきかな わが主の愛。〈繰り返し〉 アーメン

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の大御神(おおみかみ) に、ときわに絶えせずみ栄えあれ、み栄えあれ。
アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン。

後奏